第五講　詠嘆形／比較形／仮定形／限定形／累加形

一　詠嘆形

①　**不亦A乎。**（亦＝また）＝またAずや／（なんとまあAではないか）

＊乎＝哉

（例）不亦楽乎。〔亦楽しからずや。〕（なんと楽しいではないか。）

②　**豈不A乎。**（豈＝あニ）＝あニA**ずや**／（なんとまあAではないか）

＊乎＝哉

★　豈不～乎＝「豈に～ざらんや」と読めば「　　　」の意味になり、（　　　）と訳す。

（例）豈不学乎。〔　　　〕（　　　）

豈不遠乎。〔　　　〕（　　　）

③ **何**(ゾ)（**其**(レ)）**Ａ**（**也**）。＝なんゾ（そレ）Ａ（や）／（なんとＡではないか）

（例）何其浅也。〔　　　　　　　　〕（なんと浅薄であろうか。）

④ **Ａ**（＝**連体形**）**哉**(かな)、**Ｎ也**(や)。＝Ａかな、Ｎや／（Ａだなあ、Ｎは）

（例）美哉、花也。〔美しきかな、花や。〕（美しいなあ、花は。）

⑤ **～乎・哉・矣・夫・与**。＝～かな／（～だな）

（例）嗚呼(ああ)美哉。〔嗚呼美しきかな。〕（ああ、美しいなあ。）

⑥ **宜**(むべナル)**乎**。＝むベナルかな／（もっともだな）

＊乎＝哉

⑦ **已**(やンヌル)**矣乎**(かな)。＝やンヌルかな／（残念だな・どうしようもない）

問一　「不二亦宜一乎。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　またよろしからず。
イ　またむべならずや。
ウ　またもむべならざらん。
エ　またよろしくせざるなし。
オ　またもよろしくすべからざるなり。

問二　「何其仁ト与レ明之無レ不レ周也」を書き下し文にし、また口語訳もせよ。

注　仁…仁愛。
明…明察。
周…「周（あまね）し」。広くゆきわたる様子。

〈書き下し文〉

〈口語訳〉

二 比較形

① A二（ナリ／タリ／シ） 【於・于・乎】 N一ヨリ（モ） ＝ Nヨリ（モ）A／（NよりもA）

（例）霜葉紅二於二月花一。〔霜葉は二月の花よりも紅なり。〕（霜にあたって紅葉した葉は二月の花よりも赤い。）

注　二月花…ここでは桃の花のこと。

② 不レ如カ／弗レ若カ ｝～ニ ＝～ニしカず／（～の方がよい・～に及ばない）

（例）不如釈臣。〔　　　　　　〕（　　　　　　）

注　釈…「釈（ゆる）す」。許す。

③ 莫レ如クハ／無レ若クハ ｝～ニ ＝～ニしクハなシ／（～にこしたことはない・～が一番よい）

（例）莫如良医。〔　　　　　　〕（　　　　　　）

④ **莫**レ／**無**レ ｝ A(ハ)二 於 N一(ヨリ(モ)) ＝Nヨリ（モ）Aハなシ／（NよりもAなものはない）

⑤ **莫**(シ)レ **A**（＝**連体形**）(ハ)レ **焉**(これヨリ) ＝これヨリAハなシ／（これが一番Aだ）

問三　「云(ハバ)レ無(シト)レ効、則不如貧医。」の傍線部を平仮名で書き下しなさい。

問四　「夫鬱莫下甚二於病一者上。」の書き下し文として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ア　それ鬱は病より甚しきもの莫し。
イ　それ鬱は病より甚しきこと莫きか。
ウ　それ鬱は病を甚しくすること莫し。
エ　それ鬱より病を甚しくするもの莫し。
オ　それ鬱として病を甚しくすること莫かれ。

三　仮定形

① **若～**／**如～**　＝もシ～バ／（もし～ならば）

＊　**下から返らない**

（例）若然ラバ、…　〔若し然らば、…〕（もしそうならば、…）

② **苟～**＝いやシクモ～バ／（もし～ならば・かりにも～）

＊　①より強い仮定

（例）苟クモ遭ハバ二其ノ時一ニ、…　〔苟くも其の時に遭はば、…〕（かりにもしかるべき時世にめぐり会うなら、…）

③ **縦～**／**仮令～**　＝たとヒ～トモ／（たとえ～としても）

（例）縦ヒ遮護シテ留ムルモ二旧葉ヲ一、…　〔縦ひ遮護して旧葉を留むるも、…〕（たとえ覆い守って古い葉を留めておいたとしても、…）

④　**雖**～＝～トいへどモ／（たとえ～としても・～だけれども）

（例）雖レ賢ナリト…〔賢なりと雖も…〕（たとえ賢者であっても…／賢者であるけれど…）

⑤　使二NV一メバ、…＝NヲシテVしメバ、…／（もしNがVするならば、…）

⑥　微二～一なカリセバ、…＝～なカリセバ、…／（～がなかったならば、…）

問五　次の文の傍線部ａの読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。また傍線部ｂをすべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

「若(a)必ズ禁ジテ、其レ不レバ レ変ゼ、則チ雖(b)二造物一有レ所レ不レ能。」

ａ＝

ｂ＝

四　限定形

①

徒　特　直　但　只　惟　唯ダ～ノミ　＝たダ～ノミ／（ただ～だけだ）

（例）惟江上之丈人。〔　　　　　　　　〕（ただ揚子江のほとりの老人だけだ。）

注　江上…揚子江のほとり。
　　丈人…老人。

②

独リ～ノミ　＝ひとリ～ノミ／（**ただ～だけだ**）

（例）妾独リ以テレ衛ヲ為スレ有リトニ蘧（きよ）伯（はく）玉（ぎよく）一爾（のみ）。〔妾独り衛を以て蘧伯玉有りと為すのみ。〕

（私は衛の賢明な人物はただ蘧伯玉だけだと思っていた。）

注　以レ衛…ここでは「衛の賢明な人物は」の意味。

③

～已（のみ）。
～而已。
～而已矣。
～耳。
～爾。

＝～のみ／（～だけだ）

（例）　若（なんぢ）ハ不ル二忠信ナラ一耳。　〔若は忠信ならざるのみ。〕（お前が忠信でないだけだ。）

問六　「不ル二徒漢・晋・唐・宋ノミナラ一也。」の傍線部の読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。

問七　「不ランレ能ハレ安ンズル耳。」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。

問八　「唯瓶与二漆（しつ）函（かん）一如レ故（もと）ノ。」の傍線部を書き下し文にせよ。

注　漆函…漆の箱。

五　累加形

①　**不唯 A 、（而）亦 B** ＝たダニＡノミナラず、（しかうシテ）またＢ／（ただ単にＡだけでなく、またＢでもある）

＊唯＝独

（例）叔不惟薦仲、又能左右之如此。
〔叔惟だに仲を薦むるのみならず、又能く之を左右すること此くのごとし。〕
（鮑叔は管仲を推薦したばかりではなく、また管仲をこのようにうまく補佐していた。）

②　**非唯 A 、亦 B** ＝たダニＡノミニあらズ、またＢ／（ただ単にＡだけでなく、またＢでもある）

（例）非徒弗之貴也。
〔徒に之を貴ばざるのみに非ざるなり。〕
（ただ彼を貴ばないだけではないのである。）

③　**豈唯 A** ＝あニたダニＡノミナランヤ／（どうしてＡだけであろうか、いや、Ａだけではない）

（例）豈独我義也哉。
〔豈に独り我が義のみならんや。〕
（どうして私のためだけの道義であろうか、いや、私だけではない。）

問九　「何 独 丘 也 哉。」はどういうことを言っているのか。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

注　丘…孔子の名。ここでは自称。

a　世に認められないのは、私だけではない。
b　世に認められるかどうかは、私のことだけで考えない。
c　世に認められないなかに、私のような者はいない。
d　世に認められなくても、私は私以外の何者でもない。

問十　「豈 独 我 父 哉。」を書き下し文にせよ。

復習問題　第五講　詠嘆形／比較形／仮定形／限定形／累加形

①「不若己者」の書き下し文として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　己より若(わか)からざる者
イ　己の若(ごと)くせざる者
ウ　若(も)しくは己ならざる者
エ　己に若(し)かざる者

②「苟能ク弭メレ兵ヲ…」の傍線部の、送り仮名を含めた読み方として最もふさわしいものを、次の中から選べ。

ア　いづくんぞ
イ　いやしくも
ウ　しかも
エ　けだし

③「雖ニ貧賤ノ廝シ養(やう)一、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　であれば　　イ　であっても　　ウ　だけではなく
エ　よりはむしろ　　オ　でありながら

④　「苟クモ以テ㆓自ラ奉養スルヲ㆒為サバ㆑意ト、使メン㆓天下之人ヲシテ何ヲカ仰ガ㆒哉。」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もし私が我が身を養うことばかり考えたならば、天下の人々は誰をも敬わないであろう。
イ　もし天下の人々が我が身を養うことばかり考えたならば、誰も他人を敬わないであろう。
ウ　もし私が我が身を養うことばかり考えたとしても、天下の人々が私を敬わないはずはないであろう。
エ　わずかでも私が我が身を養おうと考えたならば、天下の人々は誰にも敬意を払わなくなるであろう。
オ　わずかでも天下の人々が我が身を養おうと考えたならば、誰も他人に敬意を払わなくなるであろう。

⑤　「唯」と同じ意味・用法を持つ語はどれか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　凡　　イ　夫　　ウ　只　　エ　抑　　オ　蓋

⑥　「豈惟其君無道、亦由㆔股肱無㆓良臣㆒」の読み方として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

ア　豈に惟だ其の君の無道は、亦股肱の良臣無きに由るのみ
イ　豈に惟だ其の君の無道なるのみならんや、亦股肱に良臣無きに由る
ウ　豈に惟はん　其の君無道なれば、亦股肱の良臣無きに由ありと
エ　豈に惟ふ　其の君無道にして、亦股肱に良臣無きは由なりと

【第五講】

一　②〔豈に学ばざらんや。〕（どうして学ばないだろうか、いや、学ぶ。）

③〔豈に遠からずや。〕（なんと遠いではないか。）

〔何ぞ其れ浅きや。〕

二　②〔臣を釈すに如かず。〕（私を許した方がよい。）

③〔良医に如くは莫し。〕（良医が一番よい。）

四　①〔惟だ江上の丈人のみ。〕

〈模範解答〉

問一　イ

問二　〈書き下し文〉何ぞ其れ仁と明との周からざる無きや

〈口語訳〉なんと仁愛と明察が広くゆきわたっているではないか

問三　ひんいにしかず

問四　ア

問五　a　もし

b　ぞうぶつといえどもあたわざるところあり

問六　ただ

問七　やすんずるあたわ〔は〕ざらんのみ

問八　唯だ瓶と漆函とのみ

問九　a

問十　豈に独り我が父のみならんや

復習問題解答　第五講　詠嘆形／比較形／仮定形／限定形／累加形

〔解説〕

①「不若」は「しカず」と読み、比較の句法。「若」は複数の句法で使用される文字だが、「不・弗」とセットで使われていれば、まずは「〜ニしカず」の「比較」から考えよう。よって、正解はエ。

②「苟」は「いやしクモ」と読み、「もし〜ならば」の意味。よって、正解はイ。

③「雖」は「いえどモ」と読み、逆接を表す。古文とは違い、仮定・確定のどちらの意味もあるので、文脈判断が必要であるが、この場合は逆接の選択肢がイのみ。よって、正解はイ。

④「苟」は「もし〜ならば」。よって、アかイに絞る。「自」はこの場合「みづから」と読み、「自分」の意味。したがって、「もし**私が**」となっているアが正解。

⑤「唯」は「たダ」と読み、限定の句法。「ただ」と読めるものはウ。

⑥「豈惟」は「豈ニ惟ダ（ニ）〜ノミナランヤ」と読む。よって、正解はイ。

〔解答〕

①　エ　②　イ　③　イ　④　ア　⑤　ウ　⑥　イ